

## 8 三遠南信地域住民セッション 要旨

San-En-Nanshin Summit 2013 in Minamishinsyu

住民セッション司会進行

NPO 法人三遠南信アミ理事 水島加寿代

### ■【開会あいさつ】

三遠南信住民ネットワーク協議会

代表世話人 木下利春



今年も紅葉が美しいこの時期に、住民セッションが開催できることを嬉しく思う。三遠南信サミットに多くの住民が関われるようになったのも、3 エリアの住民の思いと努力のおかげ。昨年6月に住民ネットワーク協議会を発足し、毎年、地区の代表が事務局を担当している。南信州が今まで担当。今日は、住民がこれまで何をきて、今後何を見据えていくのか、活動の実績報告を受け、来年の浜松に向けた会にさせていただきます。明日から事務局担当は浜松へ移る。今回 SENA の方も住民支援をしていこうという形になり、予算配分された。今後の活動実績のためには、関わる人の熱意と共に、資金も必要になる。3 月までの事業年度の中で、予算についても引き続きさせていただくのでよろしく。今後も皆様の協力をいただきながらネットワーク

の活動を盛り上げていこう。

### ■【第1部 活動実績報告】

①祭り街道の拡大取組

祭り街道の会事務局長 伊東直幸



ネットワークとしての活動は今年二年目。取組みの重点目標は祭り街道の延長。少しずつ延長できるような雰囲気になりつつある。祭り街道を提唱して、昔の文化を取り戻そうと取り組んでいる。

三遠南信地域で、太平洋へのびる街道は遠州海道、秋葉海道、三州街道。三州街道は国の直轄で道が完成。秋葉海道は近く三遠南信道が開通する予定。遠州海道がなかなか進んでいない状況ということで、「祭り街道」の名称をつけ、活動を進めている。祭り街道の命名は、平成11年に使用許可をとり、来年で15周年を迎える。25年度に協議会の重点事業として協力いただいた。

今年7月に新城の青年会議所の皆さんと交流、シンポジウムを開催。南信州から木下さん、豊橋から原田さんが参加して、皆さんにご理解いただいた。その後、新城の市長さんと懇談させていただいた。

(田中孝治氏より補足)

ネットワークができて2年。「再来年3月に新城ICが開くので、拠点になる。新城から飯田まで広げていこう」と、新城市長に会い、ご賛同頂いた。「祭り街道15周年」で拡大予定。引き続き、下條や飯田へも気運を持ちかけ、祭り街道が親しまれるように考えていただきたい。そして付随して、祭りと食文化や新しい祭りの創造、物流事業へと発展して頂けたらありがたい。

## ②事典シリーズの活用と食文化の融合 みらい企画 律 矢澤律子



ここが楽しい事典シリーズの中間報告。協議会の販促により、これまでに6000冊ほどが販売された。そのうち、新聞、メール報道での購入が770冊。県外に住んでいる人からも注文が入った。4巻、5巻は在庫があるので、さらに宣伝をお願いしたい。

特産事典は、生産地を知るうえで「学校の教材になる」と、先生方からの声。以前、阿南町の鈴ヶ沢ナスの生産地を訪ねた。生産者に会う大切さを実感。そんな体験企画をするのもいいと思う。地元に住んでいても知らないもの、ことが多いことに驚く。650点の文化素材が網羅されている事典は画期的な試みだった。アンケートで、魅力

的な素材も挙がっているので、今後にも利用してほしい。

自分の言葉で文化を語るには、学ぶ、体験する、交流することが大切。現地学習を行う上でも利用してほしい。

また、事典をきっかけに、伝統的な祭りが、原形をとどめて息づいている素晴らしさを実感した。著名な学者や研究者が研究して発表している。祭りには、それぞれの物語、理屈、信仰がある。春は、豊年満作、夏は無病息災、秋は収穫への感謝、冬は新しい命を授かる祈り。そして祭りごとに、神仏に供える食文化があることにも着目したい。神様仏様は旬のものを召し上がる。

さらに、豊橋カレーうどん、豊川いなりずし、どんぶり街道、奥川の戦国グルメ街道、遠州の牡蠣蒲井など、地域をアピールする取り組みがあるように、南信州もしかけたい。そこで、着目したのが、祭りと食文化の融合。国道151号沿いの祭りと食を融合した「祭り街道弁当」を開発し、ブランドにする。堪能し、日本の味を楽しんでもらい、幸せな気持ちになっていただく、そんな価値観を発信したい。

9月には、新地域づくりフォーラムを開催。豊橋観光コンベンション協会事業推進部次長の鈴木恵子さんから取り組みを伺い、素材をさらに高めて、感動させる物語づくりをスタートさせる勉強の第一歩。三年計画で、三年目に祭り街道弁当を完成させる予定。今年は勉強、二年目に試作、三年目に販売を考えている。

### ③拠点づくりと物流

NPO 法人三遠南信アミ副理事 中野眞



まず、今年 5 月三遠南信アミ理事長の松田不秋先生がご逝去され、黍島先生に代表を引き継いだことをご報告させて頂く。

地域の中には魅力ある農産物、加工品、そして根底に流れる素晴らしい食文化がある。それらをインフラが整備された中で、南信州、三河、遠州の消費者の方に届ける仕組みづくりに取り組み、経済的な活性化に結びつけたい。

三遠南信交流市場は、現在、浜松駅前で軽トラ市としてスタートし、三年目に入り定着してきた。信州のここだに、ネットワークうるぎ、設楽町の方にも物産を持ち、遠州へ出向いていただいている。確実に浜松の消費者ファンがついている。

また、軽トラ市に連携して、商店の空き店舗で、遠江特選市場をつくり、アンテナショップの形で、三遠南信をテーマにした販売コーナーを設けている。今回 10 月から、信州のここだにが、飯田市内で直売所を開くことになったとのことで、これからは、浜松のもの、東三河のものを飯田の方にお届けすることができ連携できる。今後は、豊橋方面にも広げていきたい。

以上の活動のなかで見えてきた課題は、物流コストに見合う商品の発掘、売り上げ・利益を確保できる仕組みづくり。アンテナショップらしい各地の商品の品質が大事。消費者は目も舌も肥えている。各地の自慢のものを伝え、取り揃える品質アップが重要。

また、作り手のこだわりの情報発信、消費者のファンづくり、コミュニティづくりも必須。ものの販売の先に、交流人口を増やす、観光交流を増やす、人が動くしくみ、売るだけでなく、文化、祭り、情報発信しながら、人が動くことまで活性化したい。

最後に特選市場の運営は、10 月から株式会社ティーケイワンに引き継がれた。社長の高橋秀樹氏は飯田市出身。

### ④音（太鼓）がつくる地域づくり

NPO 法人てほへ副理事長 大脇聡



NPO 法人てほへは、志多らが母体になっている。志多らは、現在「蒼の大地」の全国ツアー中で、豊橋、飯田での公演では、ネットワークの皆さんでパネルを作ってロビーで三遠南信を紹介している。ロビーを三遠南信発信場所として使ってもらっているので、ぜひ利用してほしい。

伝統的な文化には花祭りがあるが、新しいものを創造する文化をこれからもっと三

遠南信で発信していきたい。まずは、自分ができる太鼓の文化の取り組み。プロ集団である志多らを、うまく地域活用しながら文化の旗振り役にしたい。太鼓だけでなく、地域の情報を発信する「のきやま放送局」をつくり、ケーブルテレビで放映している。

遠州では映画の取組み、南信州ではスポーツ交流など、新しい活動が動きはじめている。それぞれがうまく連携して、新しい人を取り込んでいかないと、これまでの活動に興味があるひとだけでは息詰まる。今後は、伝統的な芸能文化の住民フォーラムをしたり、祭り街道と連携したりしながら、祭り文化の大切さを伝えて行く活動ができればと思う。

伝統芸能が数多いこの地域だが、祭り自体が後継者不足。どういう人を後継者にするかが課題。そういう面で、住んでいる子どもへの教育、地域外で暮らしている地元出身者や、興味のある人に、祭りの大切さを伝える企画が必要。自分たちは太鼓があるので、三遠南信地域の和太鼓をする人たちにも集まってもらい、体験を含めた想いを広く多くの人たちに聞いてもらい、次に伝えたい。

志多ら、映画の動き、情報発信、スポーツ。

志多らの舞台を創るときに思う。新しいものを発信するには、過去の経験や大切なものをベースにしないと、かけ離れたものになってしまい、観る人の心に響かない。新しい動きをする際にも、しっかりと伝統的なものを盛り込んで伝えていくことが大切。過去にこの祭りを作り上げた人たちの感性、想像力は凄まじい。それを志多らの舞台上で、新しい文化の創造を深めてもらう

きっかけとなっていると思う。次は 2014 年 6 月 22 日に浜松アクトシティで「蒼の大地」が予定されている。その公演での情報発信スペースを活用し、「こんなことができないか」と、さまざま提案していただきたい。

#### ■スポーツ文化の活用

一般社団法人南信州ここに 大蔵豊



南信州の現状を見ると、プロスポーツチームの活動状況が寂しい。そこで、以前から繋がりのあるサッカー協会と相談し、さまざまなサッカーチームと交流する中で、スポーツ活動を底上げしたい。もちろん行政や商工団体、企業などが推進しているが、子どもたちの活動を盛り上げていかなければ、持続できないだろうという発想から活動を始動した。

「ジュビロへの道。秋葉神社とのつながり」

ここに代表が、秋葉海道を整備する活動に携わり、地図、冊子、ビデオ制作において、秋葉詣でに関わってきた。交流の中で、秋葉神社の火祭りに訪れた際、必勝ジュビロと書かれた絵馬やジュビロの旗、ジュビロ選手のボールを見つけた。毎年繋がりがあるとのことで、紹介をお願いした。

ジュビロに伺ったところ、Jリーグはホームタウン制をとっており、エリア外へ出ることが難しいとの返事だったが、SENAの協力を頂き、無事に了承をいただき、今年8月、ジュビロ20周年のときに、前座試合に南信州のチームを参加させてもらえた。最近では、十月にエコパでの試合を経験できた。今後も応援していきたい。遠州の方、一緒に応援して価値観を共有できたらと思う。

#### ■質問①

Q:事典シリーズの数字確認

A:数字訂正にて了承

#### ■追加報告:

NPO 法人森づくりフォーラム

常務理事 原田敏之



東三河は、市民団体連携委員会という名前で交流事業を進めている。サミットにあわせて、東三河交流ネットに改名した。

2013年7月14日には、天龍村坂部の関さんのところへお世話になり、祇園祭に合わせて、25人でおじゃました。

また、10月27日には、天竜浜名湖鉄道で地域活動に触れたいと、宮口駅の花の舞

酒造お酒の蔵出しイベントにあわせて28人で出かけた。

今後も年に2回ずつくらい、南信州、遠州、それぞれにおじゃましながら、交流を深めていこうと考えている。「ここに行くといいぞ」という推薦があったら教えてほしい。



全体の様子

#### ■分科会

分科会では、次年度の活動に向けて、3つのテーマ毎に分かれ、意見交換が行われた。

#### ①祭り街道拡大、食文化と街道

進行役/祭り街道の会

事務局長 伊東直幸



## ②拠点づくりと物流

進行役／NPO 法人地域づくり

サポートネット代表理事

山内秀彦



## ③新たな文化と資源の活用を考える

進行役／NPO 法人てほへ

理事長 伊藤静男



## ■分科会報告

### ■第1分科会 祭り街道拡大、食文化と街道

NPO 法人つみくさの里うるぎ 原光秋



#### 【価値の高い民俗芸能の宝庫】

三遠南信エリアは、柳田國男、折口信夫、渋沢敬三など、多くの民俗学者たちが、伝統の祭りの価値に注目し、研究に訪れた地域。それは、長年の間、連綿と受け継がれ今に続いている祭りだからこそ。こんな素晴らしい宝を活かさない手はない。南信州、遠州、奥三河にも、魅力的な祭りは数多い。各祭り同士が、連携を深めていこう。高齢化が急速に進み、時間に猶予がない。皆が共通認識を持ち、それぞれの点となっている祭りが街道の線となり、さらに地域の面になっていくと、さらに力が発揮されると思う。

#### 【継承のために】

新野では、子どもたちに祭りを伝承するための「子ども教室」が十何年続いている。遠州では、継承の問題をなんとかしたいと、遠州の民俗芸能の連絡協議会を作り、ひとつの資料にまとめた。三遠南信地域全体でも、祭りの連絡協議会ができれば大きな力となり、日本の代表として世界にも誇れる

はず。

#### 【祭りとお文化の深い繋がり】

南信州交流の輪では、祭りと食文化をつないで、弁当づくりをして、南信州のブランドにしたらいいという勉強会をスタートさせた。祭りには地域の風土が大きく関係する。一年中、人間の営みの中で祭りが存在してきた。そこで食べてはいけないもの、食べるものと決まりがあり、それが食文化になっている。

祭りの音、食べる旬の味わい、そうしたものが毎日の暮らしの中で自然に積み重なっていく文化の見直しが必要。年中行事、祭り、食文化(野草や薬草等も含め)は繋がっている。それらの関係を見直すことは、とても価値のあることで、三遠南信の輝く宝になる。

#### 【理解を深める必要性】

祭りを継承する地域の人は、祭りが何のために行われているのか、使われている道具ひとつひとつの意味など、しっかり根幹の理由を理解することで、祭りの背骨ができる。それを知っていくと、より祭りに興味がわく。それが深みとなり、魅力となり、資源となる。訪ねる側は、実際に現地に向き、現地の人と交流し、自分で感じて感動することが大事。すると人に伝えたいくなる。

最近では、地域協力隊の人が地域に入ることも多く、外の意識が取り入れられてきている。変えてはならないもの、変えたほうがいいもの、その判断はいろいろあるが、全く違う感性もうまく取り入れながら、祭り文化を未来へ継承する努力を三エリア一体となって進めていこう。

#### ■第二分科会拠点づくりと物流

NPO 法人地域づくりサポートネット

代表理事 山内秀彦



拠点とは、地域のモノを売っていくアンテナショップ的な場所。先ほど情報提供した遠州では、既に拠点ができている。南信州では、飯田市に指定管理で、10月1日からコーナーを設け販売がスタートしている。ここでは浜松方面へも商品が提供され、週に1回だったものが、今後2回になっていくということ、だんだん定着しつつある。最初は厳しかったが、売り上げも伸びてきている。三遠南信地域の標高差で収穫時期の違いもあるため、南信州のリンゴを遠州で販売するなど、ニーズも高く、三遠南信での連携がとてもメリットがある。特に地域の野菜や果樹が中心に売られている。

ただし、そのためには、商品の品質や量が継続することが重要。すると、作る部分と、運ぶ部分と、売る部分のバランスが取れることが大事。いちばん問題なのが、売る部分。販路が確立されないと、いくら作り、運んでも何もならない。従って、拠点をまず造ることが先決だ。現在2地区に拠点があり、三河でも、まずどこか立ち上げたいということで、新城と話が進みつつある。

拠点ができれば、三遠南信自動車道や新東名等を使いながら、うまく物流して売る。生産者、例えば農業の方も、これまで農協から出していた人達が、自分たちで売る人たちも多く出てきている。そうした人たちは法人化し、後継者が育成されている例もある。後継者問題解決にも繋がってくる話。そんな仕組みづくりも今後のテーマになるだろう。

また、三遠南信圏域の中で、作る、売るだけでなく、地域ごとの食文化をうちだしていく、場所にしないといけない。そのためにも、旅館や観光スポットなどどううまく連携しながら、製品を提供する形に広げる必要がある。しかし情報がなかなか伝わらないのが実情なので、しっかり発信していくしくみも考えたい。

情報が発信され、皆が食べ歩くとなれば観光にもつながる。三遠南信の魅力の発信を発信し、産品や食文化を打ち出す拠点を整備し、物流によって連携させる。まずは早急に三地区拠点を確立させたい。遠州はサービスエリアでの販売もイベント的に進めているので、他の2エリアも広げていくことができればいいと考えている。しかしその場合、産品の量を確保する必要がある。そのための生産者ネットワークを作ることも必要。

やればやるほど課題があるが、目の前のことから着実にやっっていこうと話した。

## ■第三分科会新たな文化と資源の活用 NPO 法人てほへ理事長 伊藤静男



三遠南信エリアは旧石器時代に遡れる歴史文化も多く、資源は多大にある。

### 【事例発表】

文化による地域活性の事例を挙げると、

●映画制作・上映、アニメ制作の発信では、小さな地域でも高齢者たちのコミュニケーションの場となっている。山の暮らしを街の人に伝える活動は、里山の知恵を街の暮らしに活かしてほしいという願いで進めている。

●古民家造り、コンポストトイレ作りのワークショップなどの実施。畑での利用のみならず災害時などにも活躍と注目された。

●伝統の千枚田を整備し、伝統芸能の伝承と共にイベントも開催。若者の定着率もアップし、地域への誇りが高まっている。

●太鼓ステージ講演による文化発信は地域とのつながりの上で成り立っているという揺るぎない根幹。それを継続させるために、ふるさとの地域文化の魅力を、暮らしの中で子どもたちに伝えていく。

●潮干狩りができる海岸への復元など、自然を取り戻すための活動。

●地域を越えたスポーツ交流など。



### 【今後に向けて】

どんな文化発信にも、地域のつながりという根っこがないとぶれてしまう。地域の想いとして根付かせるには、短期間には結果はでない。10年20年かけて結果がでるかどうかの長いスパンで培っていくこと。暮らし全部が文化につながっている。

長い時間軸を考えた場合、経済的な力をつけていくことも大切なので、協議会で新しい研究テーマとして取り上げてもいいかもしれない。三遠南信の事典を活用し、交流につなげることを考えてはどうか。地域間交流を進める仕組みづくりとして、県境を超えた文化交流ができるツーリズムバスも研究中。

文化にも伝統的要素、新しい要素といっぱいある。それぞれが連携できるところは連携し、地域の人との集まりにつなげていこう。そして互いに情報を発信し合うことも大切。

文化交流による地域連携は、いざという緊急時の大きな橋渡しになる。文化による強い連携が、生活の強い地盤になる。

### ■まとめと今後の方向

次期三遠南信住民ネットワーク協議会代表  
世話人 田中孝治



住民ネットワーク協議会が発足されてから2年間、豊橋、飯田と事業を積み重ねてきた。今年3年目で、明日から遠州の方が担当させていただく。

今後のスケジュールは、住民ネットワークの総会に向けて準備をして、来年の総会の際に具体的な事業計画を立て、それをもとに事業を進めていく。特に、これまでは交流に主体をおいて活動してきたが、今後は交流の継続と同時に、そろそろ連携の実績を上げていきたいことが一番のポイント。

ひとつは、年長者の知恵と経験だけでなく、若い人の感性と行動力を実践力にしていきたい。両者がタックを組むことが必要になる。

また資金も必要。住民ネットワーク自体が事業を行うのではなく、それぞれ活動されている事業を、電車のプラットフォームのように繋げ、より大きくするのが役割と思う。いろんな話をだして、必要なら電車を連結して、より長く、よりスピードのでる電車にするのが役割だと考えている。

今日は、部会を三つにわけたが、これはこれまでの二年間、テーマとして方向が見定まってきた前提で掲げている。

今後は、三遠南信「地縁店(チェーン店)」をつくりたい。三遠南信のものによる特産品(食文化)、つまり食べ物による連携をはかる。今日も、報告があったように、浜松と飯田についてはアンテナショップ的な拠点ができた。今、新城が、来年三月にインターが開設されるということで、新たな拠点ができてくる。特にネットワークの中では、山間地部分の結束ができないと、大都市との交流もできない。是非とも圏境地域に核を作り、三つの物流拠点としたい。

二番目は祭り街道。来年祭り街道の15周年ということで、道でつながる軸にしたい。新城から飯田までの151号と遠州エリアをいれて、祭り街道をひとつのコンセプトにして、道でつなぎたい。

三番目は、創造街道と仮に名前をつけた、アートロードにスポーツもプラスして。芸術芸能と、スポーツ交流が柱。

これらの三つの柱で、来年10月頃まで進めたいと思う。中身はまだないので、次の総会までに、それぞれの世話人と相談して、具体的内容を決めて、ネットワークの総会で、実施をしていく予定。

#### ■来期方針の承認

現在は案となっているが、この場でご賛同いただければ、その方針で進んでいきたい。よろしければ、拍手でお認めください。

〈一同拍手〉

それでは、承認いただいたということで、中心者と相談しながら具体的計画づくりに入る。まだ住民ネットワークにあまり関わりのない方も、ぜひ、ご参加・ご協力いただきたい。

#### ■閉会あいさつ

次期三遠南信住民ネットワーク協議会

代表世話人 田中孝治

三遠南信住民ネットワーク協議会も、だんだん充実してきている。それぞれの首長さんたちのご努力に感謝。本日は大勢お集まりいただき、いよいよ人の知恵と人の輪が発揮できるようになってきた。繰り返すが、三エリアが一体となって活動していこうと思うので、よろしくお願ひします。ありがとうございました。